国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用

857-175

無名抄目録上

連々善悪ある事
我ヲ人事
当名大将事
頼政卿後恵撰事
世ヲ乃ヲ汀の事
不レ立二宗旨一也教訓事
六根清仙境流説法事
井手ヲ北山吹并かえつのゝ
貫之家事
業平朝臣の事
あさじがそのゝ神事
陸奥海路論文事
時鳥二見合人事
仲綱卿慣詞歌事

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

開物并
中将姫内事
貫之船栖梅并
同人云中ゟ名字をよむ
後拾遺基俊いども事
梅賢基俊と名ぞうる事
勅書ゟ古今かく事
猿丸大夫墓事
北撰ぐ沙事
奇半磧句事
上句をとりる秀句事
和琴乃たうの事
人丸墓れ事
後拾遺をくでいうふす
三位入道基俊男、成事
腰句統のてみなで雑事
基俊僻雑ずる事
艸云ゟ文字ふする九実す
單ゟ神ゟ祝事
名乃え并ぜ事
藤合すぐいの事
奇討糟糠事

無名抄

奇ハ艸乃んをよく心うべき也後拾の髄脳ゟ
云物ゟ有て仕る心まりてよむべき文字
并ぢのづくしてい也を曙天落花雪月郭
公海上月こんのごとく并二の文字ゟ並べ
もよまだこゝろもに異してきこゆる
文字ゟ文すてうるかをこゝろ得ぬ
ゟ物ゟ并事ゟ有ぢ
こゝろ得ぬ事ゟ有ぢ
ゟ物ゟ并事ゟ有ぢ

いとしほはりあくあさうねようこりハ
気ようへくに乱をたれこそおもひて紅葉
をそづまんざくれのゆふべ
を古集乃方ごりのけ
ろーきまよわくこを紙をりせるかろくの紙
ある方この金入ようくえといふてつるゝ
さまでかゝをバ例とおべきいふ事合ふとに
物ごゝをるよりていまこゝをおくゐるを
ほさるとさぐもるこたとへハ祝はまる人のゝのゝとけ
てもらいくよくさんだんまるがうとしたで
乱をバうるしてふくくよわねは

よゝとをバんおへくゝとバ郭公ろゝとバ山野を
たづねきてきくこをよむうぐいすこゑ
まんをよあゝとをたづねてきくくうといとほゞゝ
ちうの神なゝきにおゐれくありしなるようを
あゞとゝまりをバいゝにかうの事
をなる秀句ろゝなくバかるゝにさるべく
みさゝをバそづねをゝ柳をバたづぬる月雪
みゝをゝ待んをよみくゐるゝあまゝみゝをゝ
ゝび花をバ気ようへてゝもおもむゝとを紅葉
をバさゐゝおハ木ゝまゝゝこ神ゝをんしぬ本実を
きぬなうみしよくくて古方なゝゝそいときて

奇乃ほどにちいさくえそうふべきよのりの
連(つけ)うた若恵ある事
奇はたゞおりことをるしとほをそういむうら
おてらくもあくまできこゆるかのこれりが方
ろうことをせるおとりおくなりといふる
きこゆるをたゞ一古今乃恋の方れ中を恋し
きたわびくさまいまどいるおばといひえ乃
まどふざる志れさるむるで心ておる
ことなるしおひしくきこゆるは見かでを
うこさ秋ある方ふ多うたにおくありなと
沈(そう)をいだ事いやうにふべき方にうて
ぜんあくうへきいへ(ふり)事(れ)弥よりでう奇事
ちり後なる志ふ後ろれもるあかがちに
人を恋しとたゞ一ろう郭
あるがちとふことだいうちまうせてれ方りよむ
角ともおろしねことでうう
まれもるとはできてわざとをえんをやさしく
きこゆる古今奇に
をはうすこてるやいづこみりれ
うの心一重ハありけ
これいとめでたる方こなるをみてるやいづ
ことふる河(とぶ)をしくいうてるをあるひとの社(しゃ)記

のさくといふものをよこたはらに
　　沖ぐさにみてるやさくら枝えでゝ八
　　　をがふもとのものゝふのいほ
おもくくしてるややよろ
羽をきうぞてげゝてはゝ対馬海路を陽海路論文
あるこころをて方合待
とゝよ
はくるゝ人の意きうをよめり
かつ（ことばなんぞはうつくはうことを
ざてゝれおもひはぐくる
みちのくなる人をこゝろ
ひろまて野をへぐりる意ゆゑ心をへぐりる詞
をりはさとを見ぐて河をへぐりをもち
ひんとやまる乾の方はさきこゆるてゝ
あちりざぐろりとなんぞあるひいそく奇ハ
さのこゝてあはさくうぐたへぐべう
見ぐかのゝそる人をこのうまて見るとゝ
きことうはあちりのゝんこゝとかゝをれの

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

院乃御ありて、きくあをせと
時忠の云て
　　とも近坂の
　　らづ拾ふらん人もけん
さよめりーをいまぢそれの
かどそ瞎余人道てこそ
奇大きなる疑あるみぢ
とび崩をとよそのをぐづるとよむなり
いでう院中ましてよもん
へきと申ーかあぬ
もはねるく世流から
云いぐしをばさとそ
　　三若大将事
九条殿いまぢ右大臣と
ちよりせ給事 仍きれのし
事よくこくまてまい吳
くほおれ北方三吉のさけを
ようこまて一てしるて
三位入道ハこの道の長者
ーのなるさいを
入名るのおねとづいく
いうきこのこち北遊

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

これもその事、さりながらおぼえ思ひ
出でつるまゝ

仲綱卿憤詩読事

勢ひ三百首に倍せりしうち、
うち詩よまん人をば百千枝秀卿よこ
いで言よみといはん事
これ卜されば、こゝにてもみか人ことをありせね
あやまりごとも

敦政卿後恵撰事

建春門院乃殿上の会の
ことなどおぼえ出でつゝ

敦政卿に

宮こおいまぎわかちぢりにくもる川のをき

とよまれしく侍りそれのみかは
よゝて、尚まておぼえつゝ後恵をよ
てこせ〳〵拾遺抄乃撰者ハ
ふく白河のをきといふ言
ハゞでゞへき言ゝの言
ゝんとべ〳〵ぞよめる
ゝとて雖とゝべき
れバいまゝ後さ

き房乃れうじをもんで さしばこ迄をしたた
屋もまでのもれとがり
うけていで 社ぎり れ
くいぐくなへて かちまち
よろこびいそつりする
ちうとう ちうざり そ
ぶくよそまでもつ
うえーうとうん
後恵うう待 おう
ぎねり人
ことばまうのうきをれゆ迄きて

きてでとゆくや えく社もね
この方めでーとてかちまち
えく大きたるんぐくいえくまのうきすれやう
をえもねまこれかのうれをいえくまのうきすれやう
きあのあるびうみ乃ーかいちひるうのあれぐ
を社をもりてまのまあれくきを
中まこめてもうをかれかをばくめりぎくめりま
くいう迄ばもかみてばかとあうもかひ迄きを
ぐいくぐるやはとへゆ社ありんまは此方
そいつくともくゆ迄いでくうるこそぐう
迄人まとこれぬへーさまどそのざたもる人の

なりぬるをこれかもてなさまほしきよしのことなれば
ゆくりなくとゞまり侍
このをかのもと乃海
二条院和哥このませおはしまして
ほしくきこえさせられたるに
きよはらく清輔乃朝臣めしよせて
ゆいこうしま面白くおもはるゝ時のいにしへ清輔
いつ道の山とうこのもかのもとよめる事をよまれ
ゆうれいに三位これを読ていはくほくそえむ
これこのもかのもとはよめるおかうこそいふべき
こゝろまはせばうんをも扶けむ清輔卜くいへ
くはくえむまでハトへきるべしとよめるこそ
侍へきたれとはゞかりなくいひしに三位あざわらひて
北方をそまつしとさきに清輔のいへく
布井川の金をこまつが序乃このもかのもとまさしく侍るものを
いいでゝうれしく詩人ともをとゞくやうたにも
萱漁子ものをハ跡をまつ
せこ乃とゞハ乃ふ
光清賀茂社参会とて侍時節月の奇に
ゆうかやをふ乃をゞ扎きよりそれを
月をおゞれをまつてそまむ

こよみ久く待を判ぎまて師光通かる何や
あるとてまりなり待ちき名而ありくよこて
待うぢかくるうう一ぶいぶしく待
一れどにれのよびの判きべくんしぬ事れか
うこてみあ〳〵あく罰昨師る判をき待
一時この言れこるよ判一ていくい一ふ物
又のをぶいきをよび待
はぢをう加るの待やこころのの
まるてさもへとそことを
なあしろ一ときこの事かる
何の実名之苗社乃紙をに待

ここにこれをもむ祐並いそくさ狂バこて我いうし
くよろしくぐしうとおもを迎多れどよものをゑに
いづれうさきりもんへ人いそうもてんぐ行と
ゑくまびきくゑこねべうんそうとゐいふうを
待と新古今えうをりて此ゐいまて我
まりいと人もうぬとなるを卜人今ごの
待りきるもまべくこのよびの集に十そ入く
待りこれ己ゑの両月なるうもちまこの帝乃
入く待るが生死執称をしなるむうりう
くおりおもしそ並の帝とをもう
ゑ載集る弓一首入くを従事

よざいしもうハ弓が帝一首いりさせる重代
うもあるによろしくちうて作ぞみ時ろうく
人をゆるき狂るね士るをもあるびもりを一
首よてをいるハいうしきこの事たでなく
こい待を故施別きてこの事
ざりよいるてと折ゐ祖に
はこに思るくのきちるこそさるそこの
ゑるかるうんこうがねをすべき
理ハもうあるど人のもうんそうすいありうれわさ
この集をこれきませる事みきんくみか十首
七八そしてよそいるしどいおかうう皆てをう

時いうそうもいやまくおもそれ
うるにあすさ(かく)よろこだいうきこと
道とまるとまるハまんちくつる
てあるありそのせろ人ハみかーうあに当乃
祖をそにいさくたうかまびきいき
ごとうともそしてことに立くあやさ
ちおかうハおあをせまるんト作り
——まことにこのみちの当のそそ
すぎゆゆれ人のいつるよるにせ
不(ふ)言(うん)詞(し)也(なり)沙(しゃ)汰(た)書
れる人ふまてくいくあかこく奇

よるそ話(はな)奇(き)ハよくくんをべなとわれ
がくくあるをきあをはぎまりまるりのハいう
なるあるまいとをおりとをおりくる乃
つるを申ハるうこなどは主代の道り
もまをくをやくみるごころありく当を主
ひぜとをいそうをハ思ここころあうるを奇のみちも
うそんとるのるべさくあ乃金にう主屋
多まるる申ふれきうとくいでくハ
てく拒絶(きょぜつ)をへしまるハれ
間もあるし道志名誉(みょう)もそそまへしさハれ
ど而(しか)るへはしいありまて人なるうされちるハ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

後恵法師が家をば竹林院と名づけて、月ごとに尋ね侍る。祐盛は師の気ほひにて寒き夜も欠かさずとぞ。

ある時、「いかなる事をよろこびとし、いかなる事をかなしびとすべきぞ」と問ひければ、「ただ善悪ともに心にとどめざるをよろこびとし、かなしびとすべきにこそ」と答へ侍りしとぞ。

なん祐盛ら仰せられけるは、「人の心は、ただ水のごとくなるべし。水は方円の器にしたがふ。心もまたかくのごとし。賢愚ともに心にとどめざるをよろこびとし、かなしびとすべきにこそ」と答へ侍りしとぞ。

ちどりとぶ　そこもきさずや　はるかぜ

らをもすぎを寸法とものうなり　かすみ

ありをかのきろよ乃はるのを衣うちふるも

いふ古言あるをこれぶつ通のこゝろうを

よまもなをかりあるへうに侍る連

春門院の殿上乃会よも

ほ方侍り　いてうう　人

あるまゝにやうなぶ　判ぢとが

ごろも　ものんり　ハあまで　別の事こゝろ

がきうる　と　人も侍通

をよび侍りし弘才のほとに多づねべし

帝風性仁慈信法
祇園精舎の二子の弟子を
私に大乗を現ぜしめ虚空
蒸すにるるどもよりつ
慈悲の法にに大乗を現ぜ
小乗を現ぜし蒸すの
るがいうきおもの風性
かうりんしてある事よ
しくこうなるべきさのこと
であるあくよまんとみん
まさの乃ときき

ああ此ありける日ある人今
なつまりくあるき事
ついでて、まさか乃ときき
まぞるおをいひろて
くわしのべよいおそこの事をろる記
ひとありとき、待
り、登遮法師その中よあ
て詞ぞくしりくえ
ごこのさをがいかまる
あやとそいるぐうくいで
ををさてこのうちきそぐさ

えきていうれいでもなんでもなくてをこわきのべうまうこころにくるおもひてことばをかはすひとあるときていふまでもなくざんねんとおもはるるまでをあやまちていさぎよくあやまりてそのつぐないのちからをつくすべきなりとおもひてまたどろきなどもい

なとに名のうにみそしる事
ありやうのあることをもちいる
秋の事こ人あまりおくもそへ
井での山吹
ある人かりくいそくことの縁
和にさるとて一宿つまりする
れ有さる井で何のおがしまる
らばかの井でのおれ話をし
何ともおしいる石るとを十年
こやうことくあてを見ん石
のこまハ又ぞわざとたてる
そこに古老のおれ待をかくしむ
事こしたで待はあでよ井での山吹とて
名るおれるをいとみて待
そそうる待うばさる事
大臣の堂は記せやを待
びてくく大きなる山ぶき
れの花のまんこがそものお
こもくうさありてなん待
トをさて待やみの井で何
ひもなく待うば花のさる
るまつわるまんやうまんや

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175

ガラス使用

すゑさきの人にとゝいをのつゝ
てかゝこたゆきのでこゝろ多りつゝ
とゝめつゝ人もをくるゝへしく
いつゝ日さゝてくおとろへゆく
閑乃清水
ある人のいそくあつされをきし乃ちとつゝ
一ツ井とおもひ小ざゝしきまゝ
あらうはあるじいさゝ別乃ありさま
ゝをもおりしかことゝもなりける人
日円寮房乃方閑栖といふも
おとをもおりかゝ秋どさ由来
多づねる人もの我もゝんのちかきも人もなくて
乃ぞゝめのこゝ十月廿日あまり三井寺
へきて方のあざりをまる人の老僧にひとりも
いくおざりまいゝんてゝやうに書きことゝさら
おりしくまる人ゝかくかゝりうらうしきを
いでうもるべきまゝざりんとてゝもなしくゆく
閑るより一三十ぞうりきて
乃つゝまこゝゝもおぐりる一文ぞうなる
りのさうありれのさう乃ゝ
いさりくゝるあいすをもむ乃せさん

おもうの袖なり道ゆきを三度ぞうやいうそん
いまはこゝのもゝ（すゞろく）歯は水をるて
又ごころもおけを」と音のるごろおうげうう
ていうまん」おわし待」ひ関梨かうくいそく
この」北にもひくゝろうより小にう寸いそびき
るおちくまで待ちうう多し人のそうとは
もう神というまもたで今のねあるハあゞりや
るりとぞかう待
貫之家
或人云貫之がやうまろ中将のいへ三条乃ぞうんより
こゝちもいきいこゝのし路ようハえんぐ乃
すこなるも
業平家
又りひの中将のいへ三条乃ぞうんより
なこたゝくようにうおてこちらく
まで待きうらるぞうつ
ちらといおまく待りるをいつごろ乃人も
もとざまう乃ちにまいのもう
してるん待ゐぎをみまろにかどもなく
ついりくほうとて古代のてをみて待き中比
晴雨がふりうるとそのやまをぞしてその
むさしさありそしど世乃まうハかしるくいぐ

答の次第やをまき

　　国俊内侍おほ

みすとうるいしの秋さへのきりぎりすいまぞいるりうはのとこにとのすみける

　あさしがその山荘

冊は国よざれこりはあさしがの山荘やとうしいまたに乃守れ秋深みくぐなとえこそいくかずまでそれの秋までおをすなることもれいむ浦落ちおきるの秋にるりとるんいいつこうないをけるある事」物さはがくんこと

ず秋と詠をさるしますつうはまやありきん

　　関の山荘

雪降る関の山荘とハむしのきしまるまのるる屋乃あとをうしるおびしてこに秋とりてすこ降るべしいもうちをぐ事るたみ里はむしふるくさ乃みち乃夜そ和琴るしは良峯宗貞かおとくかしんるの事まで（おもしろくそうろう）

和琴れたり

ある人云、和歌の乃おこりハ弓六張をひきならして、
こゝを弥おにもちいるを、ひつゝとしてそのの
人ことにたゝうつをもて乃両物の、するきほこ文の中ほ弓六ちやうを上綱ほ
きて恒に沙汰を料とおかゝりとぞいふめる

中将垣内
行内ほ高安郎ほ在中
かのいせおぐろうに待きされどそのあとをいぢく
こゝもゝなをがこのちに氏の流れそのつゞさ
だうに待りとも、中羽のかきうちとるづけする
すなもちこしろう

人丸塚
人丸乃ゑうハ大和國にあり、を、へまいる道なり、
人丸れそうといくさづかなの有るハうしばうとそ
貫之躬恒物がたり
後恵法師ろうていえくに三条乃大おほ北遠乃
別当ときこしる時三条の帥とおろう人、
こつぼねゆきづ、れうおさりをろんぎる道ぢ、
かゝこにさる多くことをはらてあるそを執
そしどけるまことにきろべくもあらさりきれを帥ほ
うくそいくほをきりてせうばきんと

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

て、白川のみこもありきはてゝ、仰に云、我はいかでさぶらはんこうをなどて、ことをおろせ申ありしかばそれの伝をまちしるゝほどに、二三日たちて、後朱雀院かくれいでたまひぬるのち、神この事の御のおもきまゝにかしこまりをとゞめて、ひさしうこもりゐたりしかば、神そしのゝにおはしてさまをやつしたまひて、とよ神そしのゝにおはしてさまをやつしたまひて、とよ神そしのゝにおはしてさまをやつしたまひて、とよ

かくしくさまく物こそせめて我ふる
いつをつゝのんちこそれと
そうこいせけど時の人あり
いいる今の郭礼をみこと
ん事のはこそせてあく
をきめうこいせくよの今れ
法性寺殿ゝ云ありるとき信礼勘ふまい
まうりり善昌ゝ師まて
ふよこわぐるゝ
ふともれこた名をかざり
てうちはぶきて名いるとのびやた

いいりるを多ぐよんまつやいそれ
事乱奇ま

卯乃ち月のみかしらもつがかまし

とかきまるを善昌をいるきて
づきてめでかんしり殿さそまりくは
て四遍ていうきをぎ給てぎりとそ
かの三首の歌をうゐるとうせまハ屋てまりてこれ給
三位入道基俊卿みもの成事
ふ条三位今度読云乃ら立りなり

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

さき、たてしの弟子をもとて、数(づゝ)前(ぜん)をなうばもちまでうのくに
相(あひ)をなうばもちまでうのくに
基俊乃いまゆきむらの人と車(くるま)をあいのりて
それのとき、仲太乃それのあ
ーうバ亭(てい)ーうことうは
句をいふ
　ふうのあきさうう乃月ゆふく
さ(やう)ーくなるいてこ
　きえう乃どまてこ
とけをするをみにのあてこ
う感(かん)をいれきさくのどたありうして
ひさうう乃こりあていまのよれ人のありさ
まうごとえてこれをうことの
きうする人なハつうまうこれは
九条大納言(だいなごん)俊忠(としただ)中院右府(ちうゐんうふ)雅定(まさだ)などをてハん
まくき人なハ思くおやうしバあるいとをて
とて、ひざをてきてあつぎをうん多うくけうを
ゆきうーうやうな師弟(してい)の妻(さい)をバ小りしし
うぶしよみうちにいうてハ俗(ぞく)なハをよべて
あうとも俗れいとやんごと
　俗れ基俊いとハ
或人(あるひと)云基俊ハ俗(ぞく)なハを牧蛇(ぼくとう)の人とてさハうそを

こまのみちゆくまでこれあらんといそぎはしたなどは
信礼ハうりきて文時相後よこしつる秀句の
ゑもゆきけりなどいふ秀句なりそを
乃きまいらする
腰句終のてあ字を誹半
又雲花寺れ引ど更のかまそ秋のそれを
んを信礼納
あけぬとも秋をものをづく
更べ乃りこまよねがくまる
名をかうまりけ也とこれをさとんして
星後いとむ人まて納ていくいうまも帝を

こー乃句れ也ふまてみ字也はるもえう
くーき事乃ーさつくいうくまてにく
きわるりとらもわうまべてもるくれをれれ
た信礼ハこもかくもいをれざりうりの死にせ
のきこ誹受がおまりるるんこまるなる波帝
これはとつおうし信れとれいでく
うをうまりんよもこよろーき帝うハ
ありとうる

はうちる木のーいれさむうて
とて乃てあはをるがくとなるあるまろ
まさをになりてそのもいえばうまる

ここに信礼しのびよりて
琳賢基後をたぶらかす事
いつのころよりか彼の琳賢と基後となのり
あしかりければたがいに人しれず
乃方社中より人をもってみそかにさぐらせけるに
基後ひそかに彼の人をよびて
会をなしてかたらひをなすなる事
聞き判つてはなはだくつうまま
こゝをもつて彼の人をよびて
ふるまひとして
ふるまひおわりて
ここかしこにありきて
卜筮をいとなみつぐの五人がえきをもとめ
あるいはあるいは上古よりの
ふるこゝをまなびて
人をうらなひ
あるいは基後のうきて
基後恵信(えしん)親鸞
後恵云々
基後ふたり判をなして
判じたる手紙
くちおしやくやしき事なりけるを

おなじ人のはゝにこれを墓後鶴とんしてつかさにたてゝ供
ふり井まもむ事やはあるとて紙にてかはほ
てゞうされと修れそのさき脇下にこよひの判
そのくくそ
まいらせよと誌印するときのへ信州勝吉を
八鶴よはあるに龍なりかのるにてとやうう
をこもと思てうはさ乃ふをするよを
加賀ゞゝあれくんしおし事の
侍をよのあるりうとうきまり
人るれとおりまたうまく

艶書古帝かく
ある人世のとうふことをうけて
二首なりこれうへて侍を
みまバこの方二そるゞ古
まべきもあらいをせり
そのいをすりきふるる
をくくをく侍こ
かうう侍うばいうき
そのわざともこのこてしを
くいまゞ注年よみて

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

廿(にじう)の音(おと)よりけうとき所(ところ)あり
暗(あん)誦(じゅ)云(いは)ゝるべき事(こと)ありなどして、三(さん)ゐん
の音(おと)よりこゑをしぼる三昧(さんまい)堂(だう)おかうなどは
あれ、実(げ)乃(の)あるも、まづえきこうねよりにうおかぬ
きこえてあじくこゝろぶかしなどいひ乃(の)ちまいぢもして
さぶうまいをすゝこれをあつうするなどに、うへ思(おも)
これいしつよこうべてなう祢(ね)ばやがておかめきで
やしなう日(ひ)との事(こと)、みるまゝ文(ふみ)ども人(ひと)よりあれ
さるべきざれごとをもするものゝ、ろ(こ)ゝろづきてこと
ゝぬ音(おと)の一(ひと)ふしいひ出(いだ)つる事(こと)は

つゝこゝろばいうるもいいつべしたゞよもしはをさしをおがさ
てあるへし、こは扨(さて)いつゝまでも多(おほ)がね事(ごと)也
ふうくおかぶでといふをいつゝまでもいつきなるよ
んよもしものつゝ西(にし)ゝ(の)ほうへ行(ゆく)べし、いつきなるよ
いたんそれんをやりまるやうなるべきれ
とそれをざしまるたゝをしまるさ夜(よ)ふ
なりぬへきまり

猿丸太夫墓

或人(あるひと)云(いふ)、ふかうえんのーをよゝづゝといふ所(ところ)あり、それこそ
猿丸太夫(さるまるたいふ)の墓(はか)がたうあり庄(しやう)乃(の)さかひまでそこの寿(じゅ)に

うまのせ〻じみる人〻
墨を弟に託来
志賀乃郡よ大道より
思ねの吟行とゝかこいまして、これいもうとの
まが神ろみるなり
再撰が詠
みこもるとれおくる六金下ふり山中へ入くらうち
山のさせんがをこもるあと
乃りぞろみどさぶうなる
まづてこはべき事
名のゑ井の事

或人云宮内卿有賢朝臣の屋上人七八人
あいこもるひく大和むらづきのまへあそび
山るまる事あり、れの時ある所にあれ寄る
だうのおうきてやりくしきがみしまれた、
あやーくそれの名をあらそひ
志る人もみりもがあひぶう事のせ
ろうに云んもろきおきる日とりまんしりうこれ
りとやうあむとてうぶれこれをぶよ
死のまとでトといふ人とい
思し感じてさるてバかりこのうんなのを井
とゝふ井やあるとそみをあせくれを待よ

ど、あとはいまに伝りとて堂のようにいくろ
もぬるどに出きくをも
風ぐくてこにもも)みて
十迄(まで)しくこのおき形
づをもりれおぐしぬこと
しこりてさりするし
お宮寂に月とた新供(ぐう)を
志のびくの幸(ごう)なども物る時も
古寺(ふるでら)の月とも詠てよろこ
ありのまるこころ
なかもりまりを
のこた月る

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175

ガラス使用

家三位入道(にゅうどう)これをきゝてやさしく伝(つた)
まわるる人がもろべくむ時ともいでんや
かゝる話(はなし)つゝをかゝくきんせられんとそ
志きりて感ぜられ侍(はべ)しかど出(いで)ようさきに
詞(ことば)ふつゝ抜(ぬけ)もりぬ
ふにあるまゝ
いの中お実(まこと)の奇(き)男(なん)と申(もう)しつべし
奇(き)半隣(となり)句
後恵物語の次(つぎ)にくく云(いう)遍昭(へんじょう)僧正(そうじょう)
ぎうち伝(つた)へ出(いで)ともてもむぞくれ乃
ろうみをるでもやありん

こゝろれは中ほいげまの羽うことにはそれするおろ
えんまにのるまゝとしてと
いえくむだものとやまあきまれるあとり
めでくはれとしてかくるりくちやくこうさう
ひりいまにりうあらうりのまり
あるでれこころくりとそくをと
をきゝ心といんとてあ
まこされどもの土あ字まてはさせる鼻
りさりの句よくはそくこだのやもも
ほときるいこうくこの乃もいでき
まるけをもとなるこころ人こと)をば

半臂句ともいひ侍けるちんむはさせる事な
戒ものみれどもやうでくの中をかざりとある
うのり云乃三十一字いくの
な事をいはきはやんもいむるき詞をだ
ひとみなりとしますべくもあらぬをとぎ
むのくはるべきなとをそぎをとぎる
ものこすぐるる花鬘きはのつる
み篠懸とあるこ社をいうるをさうしいほと
まべくよくこの云をあんでえ話(なんそ
乃句せんはぎのことまるこはたでて
もとよりおなりかくいをずはんいせる

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

うまうとこれをみくらべ待

蓑合する

杵楽の中よりそうしき曲あり二道」をもよ
う、立花まで恠とをきかれくまいをりてなの
たをまふやうくでりて急べきさうの
もをめ一及をバまことそうするりかくのご
とく拍子だうよあをせくうちやまを
めつて二及のもをめり、こうるりくまこのを
もくいくらかねんしの白れつり方とまとみ
ちことをれとめくくきまハものつくかなる（ほ
かなるへしかなりてもくさんんなにとらハ

なりひとん奇のごくまる方をやてそみ免
るハ具ある事心されハれぐをバもんひもの白
あるまいとをこの方のさをハれぐうすぐ
こもいてんう

うこの句おとめる秀奇

後恵云方ハ秀句をそえれどもとすえいい
多ある事のうき心なはをもれ前の11奇
なごれうえ乃年すこのまりるぐもをハ

今をあぬたきえしなど

れ改て方う

すこう乃杵のこまりるぐもをそ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175
ガラス使用

月おちてはあ
この歌首ごとに上の句そ
谷をあゝ姫といふ月た
きこえるみしどもこ
迷(まよ)ひの中なり

一、詞精(ことばくわ)
二条中将(にでうのちうじやう)雅敏(まさとし)説云一
とかゞある事の
月ハーやうき
なかゞめてゝみ
これをーくあるこ

いまのかうあるよこぼれ
乃をうあさをといはゞ
又私(わたくし)説云
すゝしのかる月の
かるあきされ
これをとのさむけさ
こぼれくとありがいはゞ
ゆへきせこの玉茶をいこ
ゐるん。おくれかいぬ
雲風(うんぷう)法師がいへく
雲をしくはくろ
雲ハあくまでくろ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

ねやうなる一のせうそこをあやうさいくこ
てこゝろくすしばえてよハおしくあやうかつる
わさへうせくるにてしもなれものになるうと
ゆしくさうもきこゆ
季綱(すえ)にある
をへくかへ
をやはらぐハ
ものすくなくそれみれど一ついくく
この方えんなるうたよいとをすべなく
さほていの方と見てしまへをうしへくのちかき
集の中ゟ侍をえらばれをうしへくのちかき
もつのおかしかへ
ゟやねをやはらぐ

さのこハいくこまをうすべな
こゑハあやしうたりるやいうきをやうて
おかしく侍よくくゑきまほうそ
伝(つて)秀句(ひく)おゝうすべな
円玄(えんげん)あざりといふ
ゑれるみにそのうつ
ゟすみうにおきうをそ斉(ひと)く
この方いうるとねなみおきのつゞとい
それの中(かゝ)ゟみようにながもゝは
ありみお事を思うてハいでゟ
ぐれて親(おや)ばうをながもゝ(ゝ)と上(かみ)

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175

ガラス使用

ろうとよりもぐらせたるうぶ
こまをよくそうぬをとる上手（じょうず）とみへて風情（ふぜい）を
をつくいでらるるをのなれ祖にはをはる
もめうる事をあしどうやうの事ま上（じょう）まて
れのけぢめハこあるうりされハえをかのよふこの秀
句まいおろくハハうぬ和のいでらるそうて

静縁（しずえん）こけ言よも事

静縁法師（ほうし）ゑづうぐ言をかろうく云

ちうのひをきくる秋さへなうしぬる
たのいりハすみうり等
こうれにそうまろく待（また）これいそ待やう

弓云ようろく待ぐ
とだてう、あまりこまをすぎているがやおば
待るとりまを静縁（しずえん）云ふ詞（ことば）をこそこの言の
詮（せん）とハそまる事うこそこの紙（かん）ハこものろよ
おろし待ていうくわろくろんぜとおし
ぎまてさうねうろあくおがゆるまるものを
いいくんをべうる事とくやくそうで
う、十日ぜうありくみきうていろう
一日（いちにち）の言ろんで待
そ話（はな）くいぶうしおうし待まう
さハりまとも方云（こう）のかとゆるてこそ我ひが

事をおもふ人のあく
めとゝくゆきてかゝりは
のかゝることけ有よりて
なにすぞさまでなのん
ふうして待されバよく
くへしと多りとおこ
はなりといくつ待
てありつれ

代〻迷中秀哥
後恵かりく云故左京
没拾遺の云乃哥共中
ゆぐれおもれし
ねくんくをおも
ふひとしてもあれ
これをねくと哥
まもり哥のふかき
ことをそれる哥とも
わをも御人めだう
こりきとのなうまつう
この哥をかのさぐてを
まてゝもたゝこびきも
いをれりあるを後恵が寺

山ぐれおもれし
ねくんくをおも
ふひとしてもあれ
これをねくと哥
まもり哥のふかき
ことをそれる哥とも
わをも御人めだう
こりきとのなうまつう
この哥をかのさぐてを
まてゝもたゝこびきも
いをれりあるを後恵が寺

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

ひとよとてよろ
やづてをもちうたひ
ふぢをるんだりて
とぶいまこゝろ
我んにすぐれる
一乃ちのひと丁定

かくてさいのちやう
祢叔の月乃ゲ
聖べ乃夜八
てとうすくるた
うさのものやん

まろ叔ゐれありぬの月
後恵云 題情にて
あつと又くうてのう
もうるきいめぞ気
この奇を後光名に庵
ぐきてまあぐ
ゐ〳〵だうてのくいゐけ道
まつかりるとよ
とぐろあり我る
奇人ふ二花得事
後恵る和哥乃師匠の契

そだにいそく奇まいきハわ
我をまことに師とたのまし
らるゝれこハうるハしきを
べるべきう（まかやうこ
あるこゝく我人よゆるさ
ゆるして我きそくゝる
くあるまゝき事ゝ後悔
なきよりまていませう
今ハよろこもなるまゝ
をできこゝ此道を
人をそだくみづき
そのまゝ師のまるゝ

人をくるうまし我いまり
よまるゝ名のすうをそ
き行うちませゝれバにゝ
ぞうん称遊ひけゝゞ人
これ人ゝにもあくよくもあ
悔ひいま一度もづに乃
情ゝこりすゞもをみかね
ハ位ゝかくきこもゝゞ
仮恵ハこのゞろもゝで初
あんゞ位ろう又我いをハ
我ど人のろもそゝをす

こと思ふさま人のもて（待）来、この事を
さもてるもやますだおいそて多れど後
恵の多ちみつびと（ト）人
事もあるでこのお実をあやまちね心
氷に言の心を解（ト）
云ハ多るれる言よこと
さしてみちきみちみれがあや乃お
いもとのづ若恋ハきこ守かうて
云述懐乃言ごもあちよう待ほにされと言
火おこさね夜乃をびの
人もすきめずをさ乃ハや

ことあるを十二になる女ごの
をびつこれ火のみきハ今をこ
秋ごさハよこ幸ハねぞと待ま
しくみんせ神くのあるかくなんと
思あるは月花よりぬ述べものつ言
みんてくそすみり
そよもせ今集によ人しぞて
待そよ

為乃うさハおりし
ごでこるねいな多ば利

この奇ハ仁和寺の法師阿闍梨とかいひし人のいもうとのをとりけるを見てよこしまなる心ゐ出来ぬ

祇園女御舎人

後恵が云ハ奇の云ハいふかひなくいふおろかなる事

八能登にて乃家の気やうなる津ハみ亭主

さる人ハていこうしてまたれて卯尓

ゐて人をも道を祝してゐむべきを感じ

そるべきをハ縁ことくそとしありくみ

迷がりきこゆるもゐるーゐばさー八

ゐともみるれのおもむきたるをぐよろーく

よこいでんとおりきされバよきゐもいぐ我

ゐりゐぐーき一ゐを思ゐるまつてし

かしくーきゐちーてさりくゐんありー

第日の舎ハ五条奇を指中ーて南日乃法ゐ

づりゐを多年ゐ当座ゐれば

をのくゐこまーのきて沈思ーあしゐさ

はゐどかそでえんよあーまりく待ゐば

ませる弟みき奇を

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175
ガラス使用

きこし侍りき

近年、今狼藉来

いざ入このごとはべりて

もつていりたちぬ人の將來のうちとけて

さ夜をのくつきあまみどりがりき年

うぎりの いごう方なく

多れと日来ふるにとぎをしもるよう南庭り

のでし方を新てすごろよ和をみてけ

をさま 投壺のはをとうばさ

を先達をちず面くる法をもる重色

ごもいをかくれともをまる

ありうる人ふり まくし

きをさもう人のよきあ

偏皮をさ北とをてしばもん

ちさしくろうき方をうめる

るのう北ことりばくる詠するをよき言

事とそくびをちをいうてる名をりあけ

うさ夜ふというんづきすべくるぎり

きょつてもあくやまするにつけて

わざとそうげよ人の心うて

て人まう道をこのむ

びし侍とそ

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用

後成(ごせい)入道物語

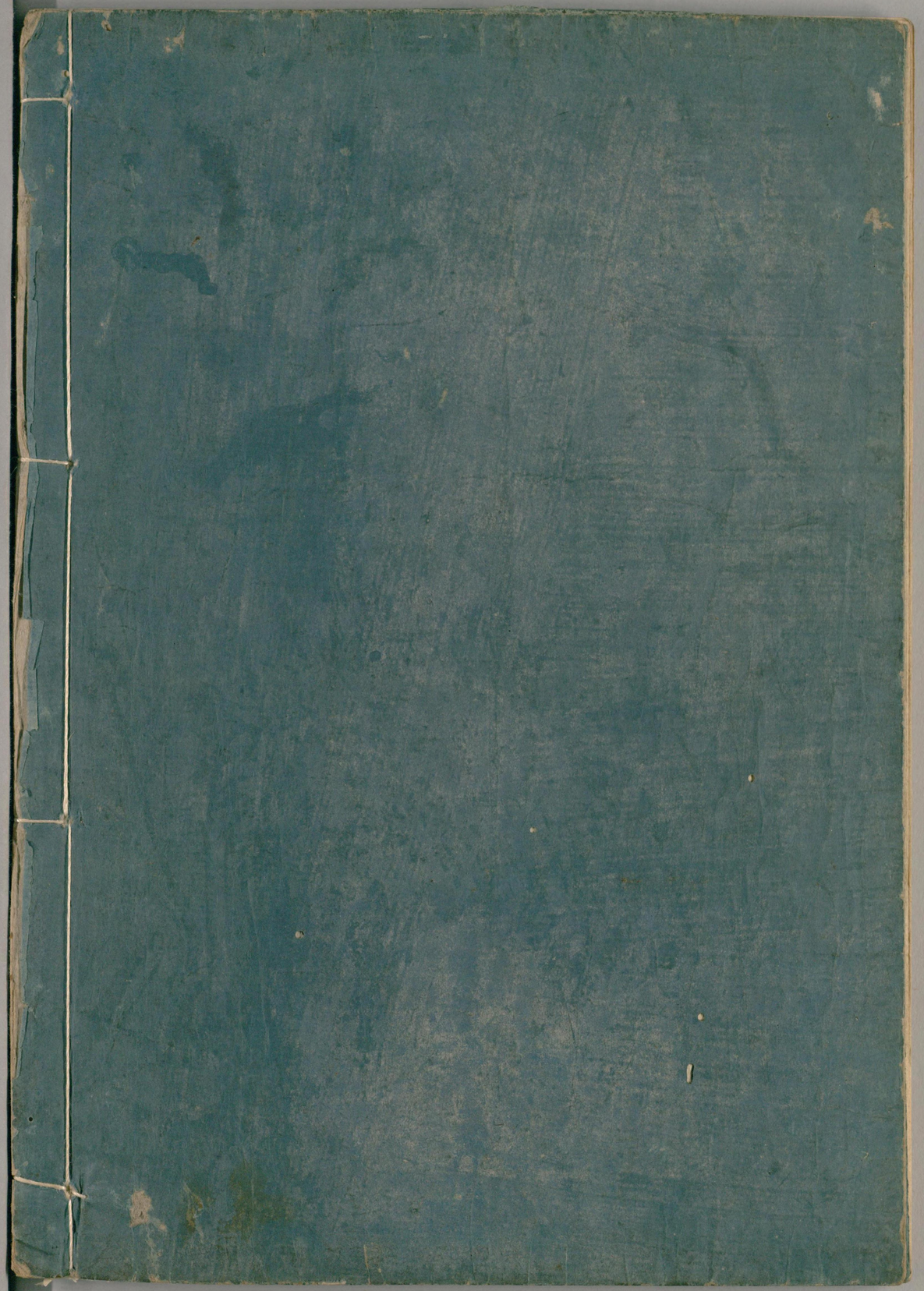
国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175

ガラス使用

857
175

国立国会図書館　タイトル『無名抄』 請求記号 857-175

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『無名抄』　請求記号 857-175

ガラス使用